

都立庭園散策報告（令和 元年 05 月 12 日）（日）

昨年 11 月末に、「都立庭園」に紅葉を見に行っていたが、今度は春の花の時期に、ビスターリ会の皆様に声を掛け、5ヶ所の庭園を廻ってみようと提案した。日程は“10 連休”が終わった 12 日（日）に決まったが、この日は「大相撲 夏場所」初日に当る、だが両国には行かないので問題ないと判断した。しかし「母の日」であることを失念していたために、「親孝行をしますので行けません」という方が何名かおられました。申し訳ありませんでした。結局、伊藤、後藤、三浦、陽田の 4 名で出掛けることになった。

天候は数日前までは曇り一色だったが、2 日前には晴れマークが現れたのは幸先が良い（ただ夕方には雷雨があるかもしれないとのご託宣だったが）。結局晴れの日だった。庭園は 9 時開園なので 9 時に南北線「西ヶ原駅」改札口集合と決めた。少し早めに伊藤さん三浦さんにご到着になり、あと後藤さんだが、もしかして目覚し時計を掛けそこなったのではないかと心配していたら、9 時 3 分前にご到着、一安心。皆さんそれぞれきちんと「東京メトロの一日乗車券（正しくは 24 時間乗車券、¥600）」をお持ちだった。

「西ヶ原駅」から 1 番北にある「旧古河庭園」を目指す。10 分足らずで到着、園内には目玉のバラを目当ての人達が大勢だ。我がグループは皆さんそれぞれの感性により、被写体を狙うので自由行動として、40 分後に入口に戻って来ることにした。庭園は洋風地と和風地に分かれていて、和風の方は少し下がったところに池を配した作りになっており、色々な灯籠が見事だ。邸宅西側に洋風庭が広がり、多彩なバラのオンパレード、丁度見頃で素晴らしいの一語に尽きる。沢山のカメラマンが右往左往している。邸宅内は“ガイドツアー”のみでしかも 10 時半（¥800）なのでパスする。ここの邸宅と洋風庭はジョサイア・コンドルの作で、和風庭園は「植治」こと小川治兵衛作であった。

9 時 50 分に「旧古河庭園」から徒歩移動で本郷通りを南下して、10 時 05 分、「六義園」の染井門（通常閉鎖）に着いた。「六義園」には人が少なく、若干拍子抜け、ここには意外と外国人も多い。丁度 30 人位の団体さんが来たので、再度集合時間を確認して慌てて進むことにする。団体さんは左回りに行ったので我々は右回りに進む。

「六義園」は柳沢吉保が作った“回遊式築山泉水”で、中央の池の周りに茶屋とか亭が配置されていて、池の中の北側には大きな島で約 25~30m 高の山もあった。この山腹はツツジ群だが、既に終りに近く、（夜目）遠目は良いが近くに寄るとかなり傷んで艶消しであった。サツキもまだ早い。しかし全体に新緑のモミジ、カエデの葉は綺麗だった。秋の紅葉の時期が最も良いかな。「心泉亭」近くで“石州流伊佐派”の名取り（多分）が野点をやっていた。20 人位の人が座って大ぶりの茶の湯茶碗で飲んでいた。周りには西洋人も含めて沢山の人が見物しており、和服の若い女の人が私に「今度 11 時から次の会があるのでどうぞ」と誘われたが、とんでもない！「不調法ですので」とお断りした。ほぼ一回りして、北側の島にツツジの群落に囲まれた「藤代峠」（高度差約 30m）があったので、登って廻りを見渡す。そこに来ていた年配の御夫婦（帯広から来た）が携帯で誕生日云々と話していたので、訊くと「今日が奥さんの誕生日で、息子からお祝いの電話がきた」と言っていた。

11時に駒込駅から後樂園駅へ行き、11時30分に「小石川後樂園」へ着いた。広い庭園は水戸光圀公の作でやはり“回遊式築山泉水”である。国の“特別史跡”と“特別名勝”の重複指定を受けている。明の朱舜水の意見で中国名のついた橋、亭などがある。東京ドームのすぐ裏側で、ジェットコースターの鉄ヤグラが見え、時折ゴーゴーという音が響いてくる。昼近くなので、ここの木陰のベンチで昼食を摂った。期待していた花菖蒲、杜若の畑はまだ早く、花穂も全く見られなかった。奥の方に「九八屋」という江戸時代の酒亭があった。看板に曰く「酒を飲むに昼は九分、夜は八分にすべし」とあった。これは“昼でも腹九分まで飲んでもよい”という有難いお言葉だ。内庭に行くと水蓮の花が咲いていた。満開ではないが、花の少ない時期なので良かった。

12時50分に出て後樂園駅に戻り、大手町駅経由で清澄白河駅へ行く。13時40分に「清澄庭園」に着いた。三菱財閥の岩崎弥太郎氏が取得して、のち東京市に寄贈された。ここも“回遊式林泉庭園”である。ここには全国から奇岩、奇石を集めてきている。「大磯渡り」など池の縁を、石を伝って歩くことができる。ここも花菖蒲は駄目、辛うじて紫蘭の一群落を見つけた。後藤さんが色々な角度から長い時間をかけて写真を撮っていた。

14時25分に「清澄庭園」を出て、三越前駅経由、銀座線で、15時に新橋駅に、15時15分に「浜離宮恩賜庭園」大手門に着いた。ここは徳川家の別邸で、明治になって皇室の離宮になった。ここには松の木が多い。特に「三百年の松」は立派だ。太い枝が広く張り出しており、枯れたり傷んだりした葉なく、全体に緑色である。松は自動車の排気ガスに弱いのだが、木が傷んでいないのが嬉しい。潮風が排ガスを散らしてくれるからだろうか。牡丹、ツツジ、サツキの花もなく、“お花畑”には何も無かった。ここでも右回りに一回りする。

16時10分に「浜離宮」を出て、新橋駅から赤坂見附駅経由で新宿駅へ戻った。新宿地下街の「ライオン」で反省会。今日は久しぶりに山行についての談義に花咲いた。後藤さんは一人で「双六小屋」へ行きたい、帰りは平湯温泉のお湯に浸かるのがよいと。三浦さんの会の二人で「槍ヶ岳」に登りたいが、エスコートしてくれる人を募集しているとか。槍の肩の小屋に泊まって準備すればよいのに、また鉄梯子は“一人”でないと駄目だとか。伊藤さんが、「久しぶりに入会希望者（63歳男性）がホームページを見て来ました」というご報告。その方の経歴が凄い、3月、4月には東京近辺の山に月に4~5回も登ったとか。このような方では、今のビスターリでは物足りないのではないかと心配になる。実はこの方、初め風の会で三浦さんに会い、入会したが家庭の事情で即日退会されたが、事情が改善したので、今度三浦さんのアドバイスでビスターリに接触してきたらしい。どうも伊藤さん、対応に苦慮されていたと。三浦さんが知っているというので、対応方針が決まったのであろう。7月13~15日の連休にトレーニングの山行を計画します。乞うご期待。いろいろ有意義な話があったが、18時40分にお開きにして、新宿駅で解散した。

今回は皆さん、独自行動にしたので、園内でのお話は採録できず、庭園の紹介が多くなったことをお詫びします。しかしながら、各庭園とも秋の紅葉と松の木の雪吊りは見事な景観になるので、是非お勧めしたいと考えます。

以上 陽田